

高齢者6人 赤坂山・花の競艶に感動

↓イワウチワ

5月6日(金)高齢者6人で赤坂山にゆっくりゆっくり登山。

JR 湖西線マキノ駅に9:26着。黒河(くろこ)峠への林道途中までタクシーで行き、簡単なストレッチをして9:53登山開始。

賑やかに林道歩き

タニウツギがつぼみをつけているが、開花はまだ。二上山の大龍寺(葛城市)の下、大阪側の万葉の森では、すでに花を観られるのだが。——林道わきの崖にはトキワイカリソウ、オオバキスミレ、他種のスミレなど多彩、写真撮影、種名同定など賑やかに林道歩き。

イワウチワの出迎え

11:05 黒河峠登山口トイレ前で休憩。トイレの前から登山道にはいる。早速今日のお目当ての一つ=イワウチワが花を見せ始める。「先にたくさんあるから」と言うが、「きれい、可愛い!!」とみんな撮影にやっき。日本海側の植物とされるイワウツワは奈良県では見られないからやむを得まい。ミヤマカタバミも蕾をほどこうとしている。



新緑と早春の花々と

すぐに林道に出、再び登山道に。山腹を斜めに登っていく道を足元の花たちを愛でながらゆっくりと進む。くさり場を経て、展望のよい場所で休憩。眼前に新緑のグラデーションがひろがり、その中でタムシバの白い花とミツバツツジの淡紅色の花とが浮き立っている。

さらに登ると木道のある湿原に。ショウジョウバカマは花を終えている。溪流を渡るころから左右の林床がイワウチワの花で埋められていく。

周囲にひろがる花、花、花

12:15 三国山(昔、近江、若狭、越前3国の境)分岐付 ↓タムシバ

↑オオバキスミレ 近で昼食。先行していたカップルから「三国山への道は花がいっぱい」の情報を得た女性たちが、荷物を置いて三国山山頂を往復。

13:10 赤坂山めざして歩き出す。道は山腹を緩やかに蛇行しながら横切り、両側にはイワウチワの花がどこまでも続いている。「すごい」、「感動」と女性たちが興奮気味。ツクバネソウも花を見せ、谷には雪が残っている。

荒々しい岩壁と鋭い岩峰

周囲の花も少しずつカタクリが混じり始め、やがて崖の上に出る。左手に琵琶湖が



見え、右手に荒々しい岩峰が聳えている。明王の禿(みょうおうのはげ)と呼ばれる花崗岩の露出地だ。

13:30 明王の禿到着。強い風を岩陰でしのぎながら記念撮影。

360度の眺望・赤坂山山頂

14:15 赤坂山山頂着。東に琵琶湖がひろがり、その向こうに伊吹山がそびえている。西には若狭湾とそれに続く日本海が、そして北に遠く白山がうっすらと見える。

古来、人々が歩いた栗柄越(あわがらごえ)

展望を楽しんだ後、下山にかかる。

14:40 栗柄峠。標高760m。古代から若狭(現福井県)と近江(現滋賀県)とを結ぶ街道=栗柄越が走っていた場所で、江戸時代には小浜藩の関所が設けられていたそうだ。栗柄は福井側の集落の名(今は廃村)。

峠の北に岩をくりぬいた石仏が、そして少し下った所に二体のお地藏さんがあるが、前者は馬頭観音だとされ、旅人や馬の無事を見守ってきたのだ。



下山路のオオイワカガミ群落も圧巻

点々とオオイワカガミ(もう一つのお目当て)の群生が現れ始めた。柔らかな春の陽射しを照り返している丸い葉が種名の由来だ。

花茎には壺状のピンクの花をやや下向きにたくさんつけている。下るにつれてこの花の中を進むようになる。「こんな

↓オオイワカガミ

にたくさんの花、初めて見た」、「感動の連続」と女性たちの弾んだ声。

15:35 ぶなの木平の東



↑シハイスミレ 屋で休憩。歩きにくい道を休みなく下って 16:30 マキノスキー場の温泉「さらさ」前着。バスはすでに出ており、タクシーでマキノ駅に。

健康いきいきフェスタ

健生会友の会主催の「健康いきいきフェスタ」が5月29日(日)大和高田市の産業会館で開かれます。10時~15時

不要になった登山用品のカンパをお願いします

↓トキワイカリソウ 日本国民救援会中和支部が「中古登山

用具バザー」を行います。不使用または使わなくなった登山用品やアウトドアグッズなどご寄付いただければ有難いです。

収益は「弾圧事件」や「えん罪事件」の支援活動に使われます。

ご連絡は 松尾忠まで (0745-52-6414)

ロシアのウクライナ侵略反対

ロシアの蛮行は国連憲章にも国際法規にも違反。何よりも世界の人々への挑戦です。

今、輝きを増す日本国憲法を守ろう!!

